

会 議 録

1 会議名

令和2年度第1回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 会長・副会長の選任について（公開）

(2) 地域協議会の運営等について（公開）

- ・ 座席順
 - ・ 会議の招集請求に必要な委員の数
 - ・ 会議録の確認者
 - ・ 会議の開催日時
 - ・ 会議の会場について
 - ・ 地域協議会だよりの編集方法等について
 - ・ 書面による審議について
- (3) 令和2年度地域活動支援事業について（公開）
- ・ 採択方針や審査スケジュール等について
 - ・ 令和2年度地域活動支援事業提案事業について
- (4) その他（公開）
- ・ 委員証について
 - ・ 名刺の作成希望調査
 - ・ 地域協議会だよりの原稿依頼

3 開催日時

令和2年5月20日（水）午後6時30分から午後8時47分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 多目的ホール

5 傍聴人の数

4人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 青山恭造、磯田一裕、今川芳夫、河野健一、久保田幸正、坂井芳美、竹田禎広、田中美佳、田中 実、田村雅春、中澤武志、林 昌宏
古澤悦雄、増田和昭、丸山岳人、水澤敏夫、水島正人（欠席者1名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小池係長、
霜越会計年度任用職員

8 発言の内容

【小池係長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

任命書の交付にあたり、市長から委員の皆様へメッセージがあるので、中村センター長より代読する。

【中村センター長】

- ・市長からのメッセージを代読

【小池係長】

議長の選任までの間、事務局が進行役を務めることを了承願う。

本日は初顔合わせとなるため、各委員より挨拶をお願いします。

【青山委員】

合併前上越市が地域協議会に参加してから10年が経った。1期目から参加しているため今回で11年目である。当時、私が住んでいる中央5丁目の塩浜町には銭湯や駄菓子屋、商店、魚屋、スーパー等があったがなくなってしまった。そして、たばこ屋も2軒なくなった。全て少子高齢化と繋がっており、若い方々が大きな土地を求めて郊外へ行ってしまった。老人が増え、子供のいない直江津の町になってしまい、これからどうしたら良いのかと考えている。この間の新聞で「卵の殻を割らなければオムレツが作れない」という文言があったが、直江津の殻は何のかということをお皆さんと一緒に話し合いながら4年間進めていきたいと思っている。

【磯田委員】

前期から地域協議会委員をやっており、今期で2期目である。今までいろいろな議論をしてきたが、その実行が難しかったりしたが、提案団体の人たちとの連携をうまく作っていきながら実りのあるものにしていきたいと思っている。

【今川委員】

今期で2期目である。直江津の顔である直江津駅の北口の環境美化に努めていきたいと思う。

【河野委員】

私は直江津の人間ではなく、山口県から来て18年目になる。まだまだ直江津のことが分かっていないので、勉強させていただき、地域の課題解決に向けて頑張っていきたいと思っている。

【久保田委員】

直江津地区町内会長協議会会長として直江津の活性化や元気のある直江津づくりに取り組んでおり、町内会と力を合わせながら、直江津の活性化に尽くしていきたいと思っている。

【竹田委員】

今回、初めて参加させてもらったが、何も分からず手探り状態となっている。皆さんにこれからいろいろ教えていただきながら進めていきたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

【田中美佳委員】

前回に引き続き2期目になる。4年を終え、地域協議会の流れが分かってきたような感じである。地域協議会という制度を知らない方々がまだ多くいると思うので、気軽に地域協議会に参加できるように作っていただけるといいと思っている。

【田中実委員】

昨年西本町3丁目に引っ越してきた。地域協議会では、以前、春日区で2期させていただいた。直江津区の皆さんの活動が私自身分かっていないので、一所懸命協力させていただきたいと思っている。

【田村委員】

1期目から委員をやっている。私は、北陸新幹線と在来線の問題について活動を行っているが、新幹線には新幹線の良さ、在来線には在来線の良さがある。利便性を高める在来線を造っていききたいと思っている。そして、労災病院の問題である。皆様ご存知のように昨年9月、厚生労働省が地域医療構想の中で労災病院が統合の対象となった。そのことに関しては、実は私の妻が昨年、2回ほど脳出血で倒れたので、労災病院のありがたさが非常によく分かっており、この構想を何とか撤回させていきたいと思っている。

その一員になればと思っているので、よろしくお願ひしたい。

【中澤委員】

11年目に入った。4期目である。地域協議会委員になった当時、私が町内会長をしていた当時の町内は140世帯あったが、現在は115世帯であり、日に日に直江津区発展とは反対の方向に向かって行きつつあるのではないかと非常に危惧している。直江津が老化の一途をたどらないように支えていけるような地域協議会でありたいと思っている。

【林委員】

昨年の11月から上越に住み始めている。私は良品計画という会社に勤めており、今後、直江津ショッピングセンターに出店させていただくが、地域協議会へも参画させていただいた。今回、私が地域協議会の中でも最年少と伺っているが、こういった若い方々が地域協議会の取組みであったり、地域協議会の中で皆様からアドバイスをいただいたりして地域を盛り上げていきたいと思っている。若輩ものだが、ご指導をよろしくお願ひしたい。

【古澤委員】

郵便局に47年間勤務していたが、地域の皆様方とともに地域を最優先にして取り組んできた。そんな中、町内会長を仰せつかったが、地域内にはいろいろな問題がある。少子高齢化に伴い、本当に人口が少なくなってきたおり、現在の私の町内は115世帯となっているかと思う。各団体の方々から話を聞いてみると町内会が一体となって活動していかなければならないと感じた。例えば、直江津の祇園祭も他の町内から来てやっとならぬ20名くらいということ。小学生も5名ほどしかいないということで廃品回収をどうするのか等の問題が出てくる。まさにこれからは町内会一体となった取組が重要になってくると思うし、今回の地域協議会委員の任についても、町内会長協議会の会長からお声掛けをいただき仲間入りさせていただいた。やはり地域協議会を通じて少子高齢化や直江津の活性化、そういったものに関して皆さんからいろいろな意見を聞きながら直江津のまちに住んで良かったなと思っただけのようなまちづくりをしていきたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

【増田委員】

委員としては4期目になるが、新しい人に引き継いでいくべくしっかりと体制を整えていきたいと思っている。そして、地域の住民の皆さんや町内会を含む地域の団体の皆

さんと一緒に連携しながら、直江津のまちづくりをしていきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

【丸山委員】

今回から初めて地域協議会となった。住まいは西本町3丁目だが、実家はこの中央1丁目、四ツ屋町内会である。高校までは上越にいたが、その後進学、就職で関西や関東方面におり、上越にはUターンしてきて10年が経った。そういったUターンの経験も生かしながら、この会議を通じて地域の住民の方々がどのような課題や問題を抱えているのかを知るとともに、それをどのように解決していくかということについて委員の皆様と検討したり協議したり研究したりして一つでも多くの課題問題を解決していきたいと思ひ委員に応募させていただいた。初めてなので先輩たちからいろいろと教えていただきながら活動していきたいと思っている。

【水澤委員】

私も3期目に入るが、今皆さんからいろいろな問題のお話をさせていただいたが、一つでも多く解決、実現できるようなことがあれば良いと思っている。

【水島委員】

私の住まいは港町だが今回の改選で港町2丁目から竹田委員も出られている。竹田委員も港町の現状を見ながら危惧されているのかなと思っている。是非皆さんと一緒に直江津地区を盛り上げていきたい。非常に難しいことだが何とか少しでもお役に立てればなというふうにお思っているので、ご指導、ご鞭撻をよろしくお願ひしたい。

【小池係長】

次に事務局から自己紹介させていただく。

- ・センター職員挨拶

次に地域協議会の説明をさせていただく。

【中村センター長】

- ・地域自治区制度、地域協議会の役割や活動等の概要について説明

【小池係長】

続いて資料No.1「第1回地域協議会の審議事項（直江津区）」について説明させていただく。

会長及び副会長の選任については、上越市地域自治区の設置に関する条例第6条の規定により、委員のうちから選任をすることとなっている。

会長の役割としては、会議日程の決定、事前打ち合わせ、会議での議事進行や意見集約、そして会長会議などの他の協議会との打ち合わせなどもある。

委員へ会長の推薦、立候補についての発言を求める。

【増田委員】

私は第1期目と第2期目に会長させていただき、3期目は副会長であった。そして3期目の会長は青山委員であった。

先ほどの挨拶でも申し上げたが、会を引き継いでいくことが重要だと思うので、私ももう今年で4期目のため、新しい人に順次引き継いでいただきたい。だが、引き継ぐ時も一気に流れ変わってしまうのは大変だと思うので、良いものは残しながら改善を加え、直江津区の地域協議会を継続させていきたいと考えているので、そのような人選をしていただければよろしいのではないかと考えている。

いずれにしても、私みたいにずっと会長や副会長を担っている者はアドバイザーとしての役割は果たすとしても自らが先頭に立つということはせず、次の人を育てるという意味から経験のある人に会長をしていただければよろしいと思っている。

【磯田委員】

議論の時に会長と副会長も同じ委員なのできちんとした委員の表明ができるような形にすべきだと思っている。条例上、会長は最後の議決権しかなく、最後のほうでしか自分の意見を言えず、議論の時に自分の意見を言えないということもあるのではないかと。会議の運営上重要なポストではあるが、議論に対して自分の意見を言って議論をしていくという立場からすると会長職というのがネックになってきているような気がする。制度上、委員から議長を出さなくてはいけないのか。もしくは、事務局が議事進行することができるのか。会長になって意見が言えなかったり、議論がやりづらくなったりすると本末転倒になる。

【増田委員】

補足説明するが、従来、意見のある委員は会長から指名してもらってから意見を言っていたので、会長、副会長は意見が言えないということはない。会長は最後の締めの方に会長としての意見を述べることができる。会長、副会長は発言してはいけないという会議規則はどこにもない。

【古澤委員】

地域協議会に出席している方々はそれ相応の立派な方々であり、どなたがなっても良

いと思っている。

【田村委員】

私は中澤委員を推薦する。

【青山委員】

私も田村委員の意見に賛同である。

【中澤委員】

直江津区の課題について今までいろいろな協議を行ってきた。だが、なかなか議論が進まず、そういう問題を解決するために誰がいつ、どういうふうにするのかというところまで議論が深まっていかなかった。時間的な制約もあったが、私自身は非常にもどかしく思っている。だが、それを取りまとめるというのは私には重いというふうに思っている。

【久保田委員】

私も中澤委員が適任だと思っている。

【小池係長】

中澤委員を会長として選任することで委員から賛同を得る。今後の議事進行は会長にお願いする。

— 打ち合わせのため、一時休憩 —

中澤会長に挨拶を求める。

【中澤会長】

4期目だが、直江津区の地域協議会のあり方というのがなかなかしっくり来なかったという部分がある。そういうものを探っていくプロセスをお互いに出し合って意見交換をしていき、非常に実りのある協議会にしていければと思っている。突然のことで落ち着かないが、よろしく願いしたい。

では次に副会長の選任についてだが、その任務について事務局より説明を求める。

【小池係長】

副会長は会長を補佐し、会長不在時にはその代理となる。人数についての取決めはない。1名選出の区、2名選出の区などがあり、前回の直江津区は2名の選任であった。

2名選出の場合、会長代理の順位の決定をお願いする。

【中澤会長】

私を会長に推薦していただいた田村委員、副会長についても何か意見はないか。

【田村委員】

代理順位の1番には青山委員からやっていただきたいと思います。何故なら今までの繋がりを大事にしたいと思っているからである。2番は田中美佳委員を推薦したい。女性だから推薦するわけではなく、今までの言動を見て私は推薦している。

【中澤会長】

今までの慣例で言うと男性1人、女性1人だったため、妥当ではないかと思っている。

- ・協議の結果、副会長を青山委員、田中美佳委員にすることで委員から同意を得る次に副会長の代理順位について意見をいただきたい。

【田村委員】

私は今までの繋がりを考えると1番は青山副会長が良いと思っている。

【中澤会長】

- ・協議の結果、代理順位1番は青山副会長、2番は田中美佳副会長とすることで委員から賛同を得るでは、一言ずつ挨拶をいただきたい。

【青山副会長】

委員の中で一番年寄りだと思っているので、若い田中美佳委員からも入っていただき、3人で皆さんの意見を聴き4年間務めていきたいと思っている。

【田中美佳副会長】

本当に驚いている。2期目だが分からないことばかりで皆さんにご迷惑をお掛けすることも多々あると思う。そのため、自分なりにやれるところをやっていけたらと思っているので、皆さんどうぞよろしくお願いいたします。

【中澤会長】

次に、議題(2)地域協議会の運営について事務局に説明を求める。

【小池係長】

- ・資料No.1「第1回地域協議会の審議事項(直江津区)」に基づき説明

【中澤会長】

では審議事項を資料に基づき順に決定していきたいと思う。

○会議の座席順：名簿順

○会議の招集請求に必要な委員の数：5名以上(1/4以上)

○会議録の確認者：出席者2名(名簿順)

今回の会議録確認者：青山副会長、磯田委員に依頼

○会議の開催日：第3火曜日を定例とし、臨時の案件がある場合は会長と日程調整して決定する

次に「会議の開催時刻」についてはどうか。

【磯田委員】

開催日は第3火曜日で良いと思うが、開催時刻については勤務されている方々もいるので午後6時30分からが良いと思う。

【増田委員】

開催時刻については、冬場が午後6時から、夏場は午後6時30分からで行っていた経緯もある。資料には「基本とする」と記載されているので、様子を見ながら進めていけば良いのではないか。

○会議の開催時刻：午後6時30分からの開催を基本とし、冬期間については今後検討する

○会議の会場：レインボーセンター

○地域協議会だよりの編集方法：協議会での審議結果等について事務局が編集、原稿を作成し、会長、副会長が確認する。

【中澤会長】

次に「書面による審議」については、いかがか。

【磯田委員】

どのような案件だと書類による審議の対象となるのか。対面して審議しなければいけないような、地域支援事業の採択に関わることも書面審議となる可能性もある。審議内容の重要性も考慮しなければいけないのではないか。表決の際、「正副会長の協議により会長が決定する」と資料にあるが、書面にて自分の考え等を表明するのだと思うが、その書面を元に、どのように正副会長が議論を行い、一人ひとりの意見をどのように拾い上げていくのかということも重要になってくると思う。時間的な問題もあると思うが、双方向の意見集約ができるような体制にしていきたい。自分の意見を出すだけで終わるのでは不都合があると思っている。制度としてどのように作っていくかが重要だと思っている。

【田村委員】

磯田委員の意見に賛成だが、会議をどのように行うか担保されるかが心配である。

今回のように感染症が流行り活動が自粛となり、協議会を行う会場も閉館しているとなれば致し方ないが、現在は緊急事態宣言が解除され、水族博物館も開館している状態であり、感染症予防の対策もきちんとしていると思う。会議がきちんと担保されるかどうかというのが、文書だけでは読み取れない。

【中村センター長】

現在は新型コロナが収束に向かっているが、まだ収束せずに会場も閉館し、自粛も続いているような状態であったかもしれない。そのような状態でも地域活動支援事業を採択していかないと提案者が事業を始められず迷惑が掛かる可能性がある。そのような状況の際に書面による審議を行うための条件や判断、表決を資料のような【案】として上げさせていただいた。また、会長と副会長と協議をしていく段階で委員の皆さんから意見集約をすることを大前提としている。話し合った内容や意見集約をした結果等についても逐一皆さんへ郵送等で報告させていただく。

【青山副会長】

事務局へ確認だが、今協議しているのは書面審議もできないような状態となった場合どうするのか、ということを知っているのか。

【小池係長】

書面による審議を実施する時の条件や判断等を決めていただきたいと思います。例えば、中村センター長も申したが、地域活動支援事業の採択などは1か月も先延ばしにはできない。そういった時にどのように協議を進めていくかという想定して資料のような提案をさせていただいた。

【磯田委員】

先延ばしにできない案件が出てきた場合の意見集約の際に、自分だけの意見を提出して終わりというだけではなく、他の委員の皆さんの意見を知りたいと思う。出た意見は各委員に出していただければと思うし、意見集約までの経過をきめ細やかにしていただければと思う。

【中澤会長】

意見を吸い上げる機会を多く作っていきたい。

【田村委員】

協議会が行えれば皆さんと討論が出来て最終的な結論を出せると思うが、表決までのスケジュールみたいなものをきちんと決めていただければ良いと思っている。

【小池係長】

いろいろな意見を出していただいたが、意見集約の方法等は、具体的にはこれから決めていく。

当案件については、都度、会長と副会長とで相談させていただき皆さんにお示ししていきたい。

【丸山委員】

私も自分の仕事の関係でいろいろな書面決議を行ってきたが、事務局が示した原案で良いと思っている。細かな所は都度修正しながら決めていけば良いのではないかと。

【中澤会長】

対面で協議するというのは皆さんの表情が見られてニュアンスも伝えられる。基本的には対面で討議したい。書面で審議するというのはどうしようもないような状態の時に限られると思うので、よろしくお願ひしたい。

○書面による審議：

- ・実施の条件：資料No.1の事務局案のとおり決定
 - ・実施の判断：正副会長の協議により、会長が決定
 - ・表決：意見集約の結果及び答申案をもとに、正副会長の協議により会長が決定する
- ※今後、具体的な意見集約の方法等については、会長、副会長と事務局で協議する。

次に（3）令和2年度地域活動支援事業について、事務局へ説明を求める。

【小池係長】

- ・資料No.2「上越市地域活動支援事業 令和2年度実施分 募集要項 直江津区版」
 - 資料No.3「令和2年度地域活動支援事業 直江津区 審査スケジュール（案）」
 - 資料No.3-1「令和2年度地域活動支援事業 直江津区の採択方針等について」
 - 資料No.4「令和2年度 直江津区地域活動支援事業提案書受付一覧」
- に基づき説明

本日は資料No.3の審査スケジュールについてお決めいただきたい。

【中澤会長】

非常にスケジュールが詰まってきており、新しく委員になられた人は分からない点多々あると思う。

今お諮りしたいのは資料No.4の審査スケジュール内にある「案1」で進めていくか、「案2」で進めていくかを決めていただきたい。「案1」と「案2」の違いは全体協議を5月

26日に行う予定だが、従来だと、全体協議の中で出た質問のほかに、後で気づいた点等があれば個人的に質問書を出してもらっていた経過がある。そして、事務局から取りまとめた質問票を提案者に送り、その回答が出た時点で再度全体協議を設けて採点ということだった。それが「案1」である。「案2」は回答を得た後の全体協議がないということである。配分額が残った場合は二次募集をしているが、「案1」だと二次募集のスケジュールが詰まってきたため、「案1」で進めたほうが良いと思っているが、皆さんはどうか。

【丸山委員】

今まで二次募集を行ったという経緯はどれくらいあるのか。

【小池係長】

毎年行っている。

【丸山委員】

毎年、二次募集を行っているということであれば早い時期に募集したほうが良いと思うので「案2」が良いのではないかと。

【磯田委員】

私も「案2」で良いと思っている。地域協議会としての質問を出しても、個人で質問を出しても、回答を的確に答えてくれる団体もいれば、そうではない団体もいる。どのような質問に対してどういう回答してきたのかということ提案者から出していただいた回答で判断して自分で点数を付けているので、改めて皆さんと会ってそこで議論する必要も、もしかしたらないのかもしれない。問題は全体協議の時の意見集約が的確になるかならないかだと思っている。そのためには5月26日に行う全体会議には、疑問に思っていることや質問したいことを書類にまとめてくる。それを皆さんに配付して疑問点等を共有し議論するという形にすれば、個人の思いをきちんと吸い上げることができ、全体協議に臨めるのではないかと。

【古澤委員】

私は初めてのため、どのような決定が良いのかは分からないが、早めに採否を決めるのであれば「案2」で良いのではないかと。

【中澤会長】

- ・協議の結果、「案2」で進めることで委員から同意を得る

【田村委員】

「案2」でいくと、5月26日は本当に大事な会議になると思っている。ただ問題は、どういう議論をするかということである。きちんとこういう場で発言すれば議事録に載るので、質問内容とか質問の意味とかが提案者に伝わるように努力することが第1点。その次に、どういう回答をされたかということである。今までの経験から言うと少しずれている回答が返ってくる時もあった。その時はやはりその回答で判断し、採点するしかない。

5月26日は大事な会になると思うので、各自、覚悟を持って臨んでいただきたい。

【水島委員】

今回、初めて出席させていただいているが、こういう話をして良いのかと迷っていたが、今まで委員をやっていた人は今までの進め方がよく分かっていると思う。今日、初めての人が何人いるのか。ここに出席することで直江津のため、協議会のために何とか一つでも知恵を出したいという強い意思を持って出席されている方々も多いと思う。今までやってきたことに対して、もう少し時間を割いて説明していただきたかった。今意見を聞いていると、ほんの一部の人だけが質問をされている。これでは協議会と言わないのではないか。他の方々は黙って耳を傾けるだけである。これを何年続けても同じ状況なら意義とは何なのかと問い掛けたくなる。もう少し慎重に協議をしたらどうか。

これは私の個人的な意見である。

【中澤会長】

審査スケジュールについては、例年であれば、4月頃に行っていたかと思うが、改選があり、新型コロナの問題があったので急いでいるという感じは私自身も抱いている。

5月26日の全体協議では、提案書を読んでいただいて何か疑問があるところを26日に出していただき、皆さんで意見を出し合って、地域協議会としての質問を事務局からまとめてもらい提案者へ投げ掛けている。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【小池係長】

- ・委員証についての説明
- ・名刺の作成について説明
- ・地域協議会だよりに掲載する原稿について依頼
- ・次回の協議会：5月26日（火）午後6時30分～

【増田委員】

私からのお願いだが、今回受け付けた提案事業の内、新しい提案がいくつあるのか。
以前からいる委員なら分かるが、新しい方々は分からないのではないか。

【小池係長】

- ・新規提案事業、継続事業について報告

【中澤会長】

進行が不慣れで申し訳なかった。水島委員がおっしゃる通り、何か質問がないかと聞かれても、なにが分からないかも分からないというような状況の委員もおられたかと思う。次回以降は、できるだけ分かりやすく議事を進めていきたいと思っているので、よろしく願いしたい。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。